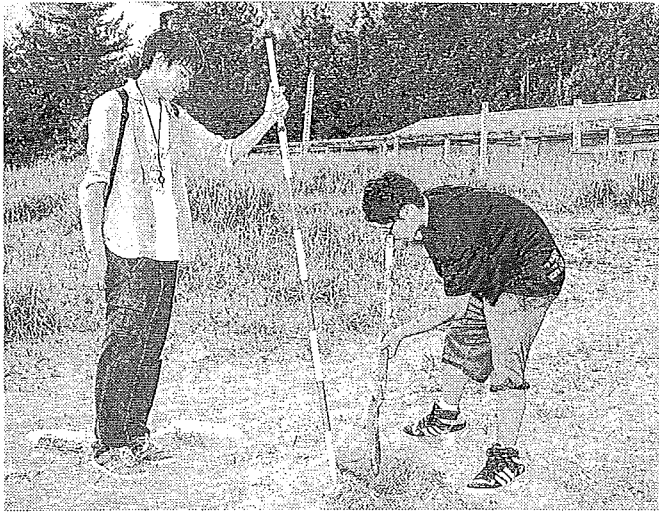


砂掘りの大変さ知る

東京都大と下田高 ウミガメ産卵地調査

吉佐美



アカウミガメ産卵と同規模の穴を掘る
下田高の生徒と下田市吉佐美の入田浜

東京都大環境学部環境創生学科の田中章研究室はこのほど、県立下田高とウミガメ産卵地の共同調査会を下田市吉佐美で行った。学生、生徒19人が植生などを調べ、分析、ディスプレイを行なった。調査に先立ち、事前学習として田中教授が同学科の活動や、野生生物の環境に影響を与える人間活動を定量的に評価できる野生生物生息地評価手続き(HEP)について説明。学生がアカウミガメの

生息地、保全活動を話した。ウミガメが産卵する南伊豆町の弓ヶ浜の状況も聞いた。現地調査には学生6人と同高生物研究部の13人が参加。多々戸浜、入田浜で植生や地面の硬度、砂の粒径などを調査した。同高1年の飯田葵音君(15)は「穴を掘ってみてウミガメのつらさが分かった」、1年の今野慶土君(15)は「話を聞いて関心が深まった。穴を掘ったことで大変さが分かり、人間も協力しなければならなかった」と話した。

同研究室は2010年の夏合宿で訪れた入田浜で、自動販売機の光を海面に輝く星の光

と間違っ死んだとみられる稚ガメを発見。翌年から「アカウミガメの産卵地保全」をテーマにした勉強会を開催している。勉強会を契機に同高と共同研究を行うことになった。